

## アンケート用紙に寄せられた質問に対する回答

標記の研修会での実践発表や講義の内容について、アンケートの記述欄に質問がいくつか寄せられました。講師の方々にご協力いただき、ご回答いただきましたので掲載いたします。

地域学校協働活動に携わる様々な立場の方々のご参考になれば幸いです。

### 質問内容

- ①コーディネーターを引き受けている理由、モチベーションを知りたい。
- ②白川さんと学校とのつながり(とそのきっかけ)は、どのようにしてつくられたのだろうと思いました。



陸前高田市地域学校協働活動推進員

横田小学校地域コーディネーター 白川 光一 氏 より

5年前、横田小学校が統合されて空き校舎となった旧横田中学校に移転した時、通学路の横断歩道で朝の見守りボランティアがほしいとの声がかかりました。自宅も近く、孫も小学5年生だったことからボランティアを引き受けました。その後、ボランティアの繋がりから、5年生の田んぼ手伝いをしたり、案山子を作ってあげたり、水生生物の調査を企画実施したりして、学校に関わるようになりました。朝の「おはようございます」「行ってきます」の声に元気をもらいましたし、案山子に歓声を上げたり、水生生物調査で知らない生物を発見して喜んでくれたりする子どもたちの姿が嬉しくて関わっていました。昨年コーディネーターの声がかかり、その延長で引き受けました。

いつかはばたいていく子どもたち。好きなこと、やりたいことをしてほしいです。どこに行っても、どこにいても横田の子どもです。自然と人と暮らしが調和している横田町。子どもたちに、そんな故郷を知って、触れて、たくさんの思い出を作ってほしいと思ってやっています。

## 質問内容

③1つの支援活動について先生との打ち合わせにかかる日数、回数、準備期間等を教えていただきたいです。

④横田の特色をとらえた支援だと思いますが、それに費やす時間はどのくらいかかっているのですか？



陸前高田市地域学校協働活動推進員

横田小学校地域コーディネーター 白川 光一 氏 より

年度当初（4月中）に、何をお手伝いすればよいか副校長と打合せをしました。また、学校への登校日（相談日）を決めました（令和2年度…毎週水曜日午後、令和3年度…毎週金曜日午後）。ただし、学校行事等などで学校が忙しい時や、夏休み、冬休みは行きません。また、相談のないときも行きません。

時間的には、昼食が終わってから5校時までの間と6校時過ぎの時間帯に、相談のある先生と協議。内容により時間が違うが一担任1回10分～15分程度。

令和3年度は4月最終週に3年生から6年生の総合的な学習のテーマと内容について説明を受け、大まかな方向性について協議しました。5月は運動会の月で登校無とした。その間に取材、講師打診をしておきました。運動会明けの6月上旬から担任との詳細打合せ、日程調整、講師依頼、資料作成、下見等準備をし、本番当日は立ち合いました。

例 3年生「いきいきわくわくたんけんたい」

1. 担任と打合せ1回目 4月23日（15分）

担任「今年は、横田の農業について学習したい。畑作も盛んなことから野菜栽培や果樹について見学学習したい。時期は1学期7月上旬。」

白川「野菜は、キュウリ、トマトなどのハウス栽培や、ピーマンなどの露地栽培がある。果樹は『北限のゆず』やりんごも古くからある。」

※協議の結果、白川が知っている農家を取材し、次回検討することにした。

2. 取材1（3か所） 4月26日（30分）

果樹（りんご、ゆず）の収穫時期は秋であり、実の小さい頃はピンとこない。花の時期は過ぎた。

3. 取材2 4月29日（15分）

ピーマン農家。7月上旬ころから収穫。収穫体験OK。

4. 取材3 4月30日（15分）

ミニトマト農家。7月上旬ころから収穫。収穫体験OK。

5. 取材4 5月14日ゆずの加工品（菓子）工房（15分）

受注生産で製作しているときの見学は不可。製品の説明は可。クッキーづくり体験などは可。

6. 担任と打合せ2回目 6月7日（10分）

○果樹は実のなる時期か。菓子工房は体験を含め今後の検討として、1学期は野菜見学・もぎ取り体験とした。車の借上げができるので、果樹のほ場を車窓見学することにした。

- コース、時間割の案を決定。
- 7月実施で、公用車の手配は学校、農家依頼・下見は白川。
- 7. 6月10日 コース下見、現状写真撮影（30分）
- 8. 6月11日 コース案、時間割作成（地図にルート入れ、写真を添付）（60分）  
コース案を担当へ提案
- 9. 6月14日 視察先と日程調整 7月12日です承 担任へ連絡（30分）
- 10. 担任と打合せ3回目 6月18日（10分）  
担任が作製した実施計画書の説明を受け確認。  
果樹の部分は白川が車内で説明。質問事項は事前に渡した方が良いと伝えた。
- 11. 担任との打合せ4回目 7月2日（10分）  
担任が質問事項を届けた。現地も確認してきたとのこと。
- 12. 担任との打合せ5回目 7月9日（15分）  
「しおり」により当日の流れ、注意事項等確認。  
トイレの必要性が発覚。近くの町内会の公民館のトイレを借りることにする。白川手配（その晩、電話で依頼、了解を得た）。  
何かあったときのため白川、自転車で行くこととした。
- 13. 7月12日当日朝、トイレ鍵の確認、ルートの安全確認等した。  
当日、果樹の車内説明（北限のゆず、りんごの歴史）、もぎ取り体験講師へのあいさつ、学習体験補助、トイレの開放。  
終了後、トイレ利用跡の確認、鍵保管、電話にてお礼。

## まとめ（令和3年8月時点）

### 3年生「いきいきわくわくたんけんたい」

担任との打合せ	5回 10分～15分	60分
準備 取材、交渉	6人×15分	90分
コース、学習案作成（取材結果で白川作成し担任へ提案した）		60分
視察先との調整 1回	2人×15分	30分
当日下見（トイレ確認、安全確認等）、後見	各10分	20分

### 6年生「震災学習」

担任との打合せ	5回×10分	50分
講師依頼、内容打合せ	3人×15分	45分
1人（講義内容を事前に説明された）		60分

### 4年生「水生生物調査」

担任との打合せ	4回×10分	40分
講師依頼、内容打合せ	2回×15分	30分
事前説明会（白川講師）	1回	45分

### ホタル観察会

学校への情報から急遽計画立案、チラシ作成、日程調整		90分
学校へ連絡のあった保護活動している方と調整	1回	30分
ホタルの種類、特徴などの配付資料作成、印刷		120分
観察会当日 受付、司会進行、説明	2日×45分	90分
終了後（2週間後）お礼あいさつ等		45分

### 質問内容

⑤地域学校協働本部の地域コーディネーターが、学校運営協議会の地域コーディネーターを兼ねている場合、謝礼はどちらから出るのか？



八幡平市教育委員会

社会教育指導員兼 CS アドバイザー 藤嶋 茂美 氏 より

学校運営協議会に関わるコーディネート業務を地域コーディネーターの本務とするかどうかにかたります。

本務とする場合は地域コーディネーターとしての報酬に含まれますから、新たな費用は発生しません。本務とせず、地域コーディネーターの勤務時間外にコーディネート業務に当たる場合は学校運営協議会として費用負担をすることになると考えられます。しかし、地域コーディネーターとしての業務の多くは学校運営協議会の業務と重なると考えられますので、大半は前者のパターンになると思われます。

### 質問内容

⑥「『校内で検討します』とは言わないように」とのことでしたが、即答できかねる事柄も中にはあるかと思います。その時の解決の仕方(期日を決めて報告する、可否だけでも決めるなどでしょうか?)をご教示いただければ幸いです。



八幡平市教育委員会

社会教育指導員兼 CS アドバイザー 藤嶋 茂美 氏 より

「運営のポイント」として述べたことの意図は、学校運営協議会を「ただ意見を言うだけの会にしない」「委員の当事者意識を求め、責任ある決定の場にする」ため、このことはご理解いただけたと思います。

一方、ご指摘の通り、即答できないことも想定されます。例えば、実際に子ども達と活動を展開する教職員の意見を聞きたい場面も出てくると考えられます。そのような場合は、大枠は決定し、細部について教職員の意見を聞いて、最終決定は委任していただくということが現実的だと思います。ただ、CSの魅力の一つはスピード感です。委員として「管理職以外の教職員」を加えておけば、その場で教職員の意見を反映させることが可能となり、決まらないことは減るだろうと考えられます。

### 質問内容

⑦コーディネーターの方はどう声かけ(人選)したらよいか、やはり迷う。情報を広く発信・受信できる方がよいが…。

⑧白川さんのようなすばらしい地域コーディネーターに出会うためにはどうしたらよいのでしょうか。地域資源をつかむ場がほしい(特別支援学校は全県が舞台なので特にも人選が難しいです)。



八幡平市教育委員会

社会教育指導員兼 CS アドバイザー 藤嶋 茂美 氏 より

コーディネーターの候補者は、すでに学校に関わっている方の中にあることが多いと思います。学校に子どもを気にかけて、今学校を支援して下さっている方はいないでしょうか。そして、地域を知り、出来ればネットワークをもっている方がいたら最高です。白川さんは素晴らしいコーディネーターですが、他の学校のコーディネーターは引き受けないと思います。「すでに学校に関わっている方」を思い浮かべてください。きっと何人かの顔が目につくと思います。

特別支援学校の場合も、同様の考え方が適用できるのではないのでしょうか。

### 質問内容

⑨CS と教育振興運動との関係はどうするか具体的に知りたい。



八幡平市教育委員会

社会教育指導員兼 CS アドバイザー 藤嶋 茂美 氏 より

A 「教育振興運動」といっても、その様態は市町村で大きく異なります。先日の北上市の発表には「教育振興運動」という言葉が全く使われませんでした。ここでは、八幡平市の実情と構想についてお伝えします。

八幡平市の場合、CSを導入する際、「教育振興運動の基盤の上に立つて・・・」と規定されているだけで、具体的な位置づけは曖昧なままでした。その結果、教育振興運動実践区(以下キョウシン)とは別に、各学校に学校運営協議会が設置されることになりました。八幡平市ではキョウシンの事務局の多くが小学校にありましたので「組織」が新たに増えることになり、負担感が増した地域もあります。

今年度、次のように解釈・構想しています。

①学校での教育(学校管理下)は「学校運営協議会」を活用し、地域とともにある学校をめざす。

②地域での教育(学校管理下外)は「地域振興協議会」が運営するコミュニティセンターを活用し、地域での児童生徒の健全育成(教育振興)を図ることとし、学校・実践班(子ども会)との連携を進める。

現在、事務局は学校に置きながらも、コミセンとの連携を強め、地域主体の活動を増やしています。

質問内容

⑩「市町村は教育の2つの課が両輪となり…」とあったが、県立学校はそれはないのだろうか。どの学校も困っていると思います。



八幡平市教育委員会

社会教育指導員兼 CS アドバイザー 藤嶋 茂美 氏 より

八幡平市内の県立学校は平館高校だけですので、地域の学校として「市」と密接に連携しています。

- ①市長・教育長が平館高校振興組織の構成員
- ②八幡平市広報紙への掲載（毎月1ページを割り当て）
- ③学校運営協議会に代表が参加（教育委員会教育総務課長）

※研修会当日のアンケート用紙にお寄せいただいたご質問すべてについて掲載することができませんでした。ご了承ください。掲載できなかつたご質問につきましてお問い合わせがございましたら、生涯学習推進センター 担当（高橋）までご連絡をくださいますようお願いいたします。

〈担当〉

生涯学習部

社会教育主事 高橋 祐輝

TEL 0198-27-4555（内線 216）

FAX 0198-27-4564

E-mail : [yuuki-taka@pref.iwate.jp](mailto:yuuki-taka@pref.iwate.jp)

[yuuki-taka@pref.iwate.lg.jp](mailto:yuuki-taka@pref.iwate.lg.jp)